



# すみれ通信 76号



すみれ通信は、医療・介護に携わる方に発信しています

〒 251-0032

藤沢市片瀬339-1

藤沢市医師会館

在宅医療支援センター

☎ 0466-41-9980

Fax 0466-41-9981

メールアドレス fuji-zaitaku@movie.ocn.ne.jp

## 第5波における COVID-19 自宅療養の現実

～地域療養神奈川モデル輪番医から伝えたいこと～

藤沢市医師会公衆衛生担当理事 鈴木勇三

藤沢市の COVID-19 新規感染者数は、デルタ株への置換が進んだ第5波の8月から日々100人を超える感染爆発状態になりました。コロナ入院病床逼迫のため、ほとんどの患者は10日間の自宅療養に入ります。その中で神奈川県の入院優先度スコア5点以上のリスクを有する患者が地域療養神奈川モデルの対象者となり、藤沢療養サポートセンターによる訪問看護が始まります。常時100～120人がサポートを受けていて、日々20人が新たに加わり、ほぼ同数が終了となります。

軽症者に対しては訪問看護師の依頼に応じて医師会理事を中心とする輪番医が電話診療を行い、入院が必要な重症者は二次救急病院輪番医が県入院調整班と搬送調整を行っています(図を参照)。

軽症者への電話診療は、症状を丁寧に聞き取り、自宅療養に必要な解熱剤や鎮咳剤、さらに肺炎が疑われる場合にはステロイドの約束処方を行います。低酸素を呈す場合には在宅酸素療法導入の指示もします。

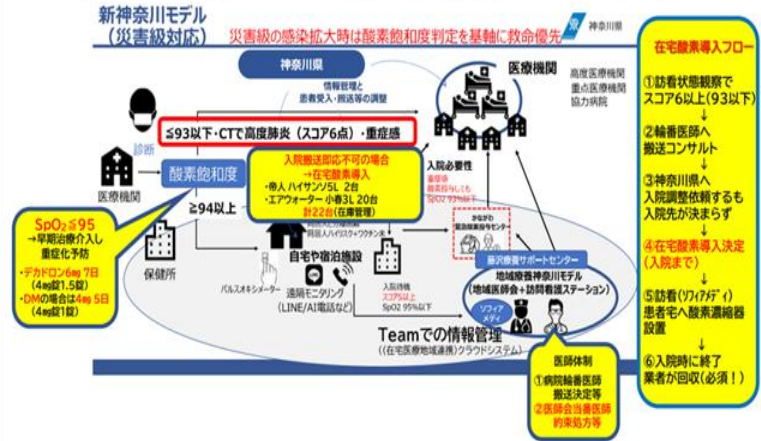


ここでの軽症者の一般像ですが、コロナを服用しても39℃の発熱が3日から1週間以上も続き、会話も出来ないほどの咳嗽を伴い、疲弊して決して軽症とは言えない状態です。症状悪化への不安や死の恐怖を抱いている患者も少なくありません。そして酸素飽和度が96%を切った中等症Ⅰさらには93%を切った中等症Ⅱの患者さえも入院できずにデカドロン内服と在宅酸素療法導入でなんとか命を繋いでいる状況です。酸素濃縮器は常時10台以上稼働しています。本来なら入院させて酸素投与とレムデシビルおよびデカドロン点滴治療を施行すべき急変の可能性のある患者群を自宅で診ざるを得ない状況なのです。

このように第5波では、医療崩壊寸前の状況となりました。藤沢市医師会としては、「在宅死を出さない!」ことを第1に考えて、神奈川県を先頭を切ってステロイド早期投与と在宅酸素導入に取り組んで来ました。手応えも感じつつあります。この文章が皆さんに届く頃には、きっと事態は好転し中等症Ⅱは全例入院可能になってい

ることと思います。まだまだ戦いは続きますが、御協力よろしくお願いいたします。

## 地域療養の神奈川モデル(藤沢版) ～在宅ステロイド治療による重症化予防と在宅酸素療法による在宅死回避～



## 在宅医療委員会担当理事のお役を頂いて



いしい内科医院 石井由佳

これまで医師会の一員として在宅支援センターからのお知らせや多職種連携の会への参加等で沢山の情報を共有させて頂いてきました。今年7月から木原先生の下、上記担当理事をさせて頂く事になりました。とは言っても今は会議に出席していても言葉が目の前を飛び交う状況です。

活発な討議を聞きながら、約20年前私が開業して間もない頃の事を思い出しました。丁度お盆休みに一人暮らしの超高齢者の目の上が赤く腫れて痛いと本人から連絡があり、近所の眼科の先生も休診で、家人にも連絡がとれず、訪問看護さんも地域包括さんもわからず、ケアマネさんも決まっていなくて、市民病院に連れていく人も居ませんでした。途方にくれて結局私が自分の車でお連れし処置して頂きました。今なら電話一本で沢山の人の知恵やパワーがあつという間に集まり動き出します。対応困難な場合でも会議等で最善と思われる方法を討議して対応して下さいます。市民の方々への周知もアイデアを出し合って進めています。携わる沢山の方々のご努力で藤沢市在宅医療は時代とともに進化し続けています。私も今後会議にも頑張って参加し、藤沢市民のお役に少しでも立てる様、職務に励みたいと思いました。

二年間どうぞよろしくお願い致します。

